

2 各教科の結果と質問紙調査との関連を分析して、正答率の高い傾向にある児童生徒

生活に関わること	学習に関わること
◎ 朝食を毎日食べている。	◎ 分からないことや詳しく知りたいことがあったときは、自分で学び方を考え工夫している。
◎ 起床、就寝時刻が決まっていて守っている。	◎ 学校の授業以外に1日2時間以上勉強している。
◎ 家に本がたくさんあり、読書が好きである。	◎ 授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりしている。

学力向上に向けた今後の取り組み

学校では

- 少人数教育のメリットを生かした指導を継続していきます。学力調査では学年集団の傾向のみでなく、児童生徒一人ひとりの学力(身につけていることや課題)を把握し、個別指導を充実させていきます。
- ICT機器を積極的に活用し、協働的な学びや思考力・判断力・表現力の向上に役立たせてきました。引き続き活用しながら個別最適な学びにもつなげていきます。
- 思考力、判断力、表現力の向上のために、授業では「話すこと・聞くこと」の充実を図るとともに、文章を書く機会を増やしていきます。

ご家庭では

- 毎日の生活リズム(起床、就寝、食事の時間)を守らせましょう。
- ゲームやスマートフォンの使い方を親子で決めましょう。読書の習慣をつけさせましょう。
- 家庭学習を習慣化させるために、下校後の計画を立てさせましょう。



学校と家庭が連携し
毎日の積み重ねで
よりよい学習環境を
つくっていきましょう!

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果から

令和6年4月に全国学力・学習状況調査が行われました。この調査の目的は、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、今後の教育活動に役立てていくことです。今年は2教科(国語と算数・数学)の試験及び質問紙調査(学習・生活状況に関する質問)を実施しました。飯館村教育委員会では、調査結果から子ども達のよさや課題を把握し、継続的な検証改善サイクルを確立しながら確かな学力を育むことをめざしています。

福島県の傾向

- 小・中学校国語が全国平均をやや下回っている。小学校算数と中学校数学においても全国平均を下回っている。
- 質問紙調査から「主体的・対話的で深い学び」を実感しながら学習していると答える児童生徒は全国平均を上回っている。
- 全国平均に比べてICT機器を効果的に活用した協働的な学びの推進に課題がある。

飯館村の傾向

- 前期課程(小学校)の傾向は県と同様である。後期課程(中学校)では全国平均を上回っている。
- 授業におけるICT機器の活用頻度は全国や県平均に比べて極めて高い。

1 各教科について

6年生

	良くできているところ	課題となっているところ
国語	<ul style="list-style-type: none"> ■ 漢字を文の中で正しく使う。 ■ 情報と情報との関係付けや語句と語句との関係の表し方を理解し使う。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 目的や意図に応じて、伝え合う内容を検討する。 ■ 資料を活用して、自分の考えが伝わるように表現を工夫する。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ■ 数量の関係を、記号を用いた式に表す。 ■ 直方体の見取図について理解し書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 除数が小数である場合の除法の計算。 ■ 計算が成り立つ性質を活用しながら計算の仕方を考察する。

9年生(中学3年生)

	良くできているところ	課題となっているところ
国語	<ul style="list-style-type: none"> ■ 短歌に用いる表現の技法についての理解。 ■ 文の成分の順序や照応(関連)についての理解。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 必要に応じて質問しながら話の内容を捉える。 ■ 文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈する。
数学	<ul style="list-style-type: none"> ■ 考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算をする。 ■ グラフから事象に即して解釈する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 図形の証明について筋道を立てて考える。 ■ 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する。